

開学30周年記念号の刊行に際して

経済学部長 大久保 勲

経済学部は、福山大学が昭和50年4月1日に開学した時からの学部であり、平成17年が開学30周年にあたる。多くの開学記念事業の一環として、経済学論集も開学記念号を刊行することになった。関係者のご努力で、ここに順調に開学30周年記念号が刊行されることになったことは誠に喜ばしい。

福山大学経済学部は、本学開学以来、経済学科だけの一学科体制であったが、平成時代に入って四つの改革を経た。具体的には、経営情報学科の開設、大学院経済学研究科の開設、福山平成大学設立に伴う経営情報学科の移転、そして国際経済学科の開設である。更に平成18年4月には税務会計学科の開設が予定されている。

当経済学部が立地する福山市は、地方拠点都市として、ユニークな地場企業を多く抱えている。近年、国際化の進展とともに、多くの企業が海外に生産拠点を設けたり、輸出入等で海外との取引を深めている。経済学部の研究と教育も、学部としての伝統を守ると同時に、こうした大きな時代の流れに沿って、積極的に地域経済の発展に資する研究と、国際化に対応できる有為な人材の育成に努力しなければならない。

近年は、時代の要請で教育面をますます重視せざるを得なくなっている。だからこそ、よりよい教育のためには、日頃より地道な研究への努力が欠かせない。当論文集も、こうした研究重視の姿勢から編集された。

新しい歴史のスタート台に立った経済学部は、教育面でも、研究面でも、しっかりと時代の要請に応えてますます発展していかなければならない。ここに開学記念号を刊行するとともに、将来をしっかりと見据えて、覚悟を新たにしたい。